

私の 臨床レポート



東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
部分床義歯補綴学分野

風間 龍之輔
先生

今回のアイテム

オラスコープティック

日差、疲労等で生じる視力の変化に対応できるルーペ

3.8倍から4.8倍に変更した結果、より高倍率な視野を獲得でき、これまで見落としていた対象物の細部が確認できるようになった。

特に支台歯マージン部の仕上げはとて容易になった。

接着修復後のレジンセメントの残渣を正確に取り除くことができる。

TTL（スルー・ザ・レンズ）はクリップオン、ヘッドギアタイプ等と比較して接眼レンズと眼球の距離が最も小さいため、視野率が大きく、強拡大でありながら広範囲を一度に視認可能である点は、精度と安全性を同時に獲得できると実感できる。

ことで術者自身が任意の作業距離を自由に調整できる点、これにより日差、疲労等で生じる視力の変化に対応できるルーペであると思われる。

今後も高品質なレンズ機能とファッショナブルなフレームデザインを期待します。



左右同じ距離のワーキングディスタンス



レンズを右に回すとワーキングディスタンスは長くなる



レンズを左に回すとワーキングディスタンスが短くなる

●ポイント

効き目で一番見やすい距離で調整してから、両目でもう片方のレンズを微調整する。